

生誕80周年寺山修司展・澤田教一展 ～青森から世界へ～ 併催イベント  
平成27年度 第3回 青森市所蔵作品展

# 小島一郎展



期日 / 2015年 11月11日(水)～15日(日)

10:00～20:00 (最終入館19:30)

会場 / 青森市民美術展示館 2階展示室

入場  
無料

《お問い合わせ》一般財団法人 青森市文化スポーツ振興公社 リンクステーションホール青森(青森市文化会館)  
〒030-0812 青森市堤町1丁目4-1 TEL 017-773-7304

主催 / 一般財団法人 青森市文化スポーツ振興公社

共催 / 青森市教育委員会

協力 / 青森県立美術館 サトウユウジ

後援 / 東奥日報社 毎日新聞青森支局 朝日新聞青森総局 読売新聞青森支局 陸奥新報社 デーリー東北新聞社

NHK青森放送局 青森放送 青森テレビ 青森朝日放送 エフエム青森 青森ケーブルテレビ



この協賛は、あまもり  
観光レジェの単位と  
して認められます。

## 小島一郎 こじま いちろう

戦後、国産カメラの普及やフォトジャーナリズムの発展を背景に、アマチュアの写真熱が高まった写真界において、生まれ故郷、青森を被写体とし、鮮烈な足跡を残した一人の写真家がいきました。小島一郎。大正13(1924)年、青森市大町で、玩具と写真材料を扱う商店の長男として生まれた小島は、青森県立商業学校(現：青森県立商業高等学校)を卒業後、出征。戦後の混乱期を経て、昭和29年頃から本格的に写真を撮り始めます。津軽の農家の庭先や雪原の一本道といった何気ない題材から、日常を超えたイメージを引き出す突出した造形感覚と確かな技巧は、日本の報道写真の先駆者、名取洋之助に見出され、早くから東京で紹介されました。またこの時、小島の写真店でアルバイトをしていた澤田教一に大きな影響を与えました。昭和36年には、プロのカメラマンを目指し上京。同年に発表した『下北の荒海』でカメラ芸術新人賞を受賞し、その後の活躍が期待されます。しかし、郷土を題材とした写真で世に出た小島にとって、住み慣れぬ都市で新たな展開を図ることは、想像以上の困難を伴うものでした。募る焦燥感の中、東京での不振な仕事ぶりから抜け出すべく、北海道の四季の撮影を決意。昭和38年冬、現地に赴きますが、撮影は難航します。度重なる過酷な撮影行から、体調を崩した小島は、期待した成果を得る事なく青森に戻り、体力の回復を待ちながら、細々と写真の仕事が続けますが、昭和39年7月、39歳の若さで急逝しました。



小島弘子氏撮影

本展では、昭和36年、第2回の個展となる「凍ばれる」で展示されたと考えられる写真パネル53点と小島が愛用した同型モデルを含むライカコレクションも併せて展示いたします。「凍ばれる」の写真の多くは、下北半島が撮影の舞台となっています。残されたネガケースの記録によると小島は、昭和36(1961)年1月初頭から下旬にかけて、大畑、奥戸、大間、牛滝、九艘泊など、二週間以上にわたり集中的に下北半島西部を撮影しています。「凍ばれる」の下北の写真の核になっているのは、その撮影旅行の中で生み出されたものです。降雪量の多い湿潤な津軽にはない、その乾いた冬の寒さ。気候条件と人々の営みという点で、津軽をも圧倒するような厳しさを下北に感じていた小島が、その実感にふさわしい、新たな表現方法を模索する中で見つけた答えが、粗粒子やハイコントラストといった印画の仕上げでした。

この機会に青森の風土から生まれた、写真家小島一郎の熱い想いが込められた作品をご鑑賞ください。



□□□□□□□□□□□□□□□□



□□□□□□□□□□□□□□□□



□□□□□□□□□□□□□□□□



□□□□□□□□□□□□□□□□

### 小島一郎 KOJIMA Ichiro (1924-1964)

#### ■略歴

- 1924 大正13 青森市大町(現：本町)に玩具と写真材料を扱う「小島商店」を営む家の長男として生まれる。父・平八郎も写真家で、青森県の写真界の草分け的な存在であった。
- 1941 昭和16 青森県立商業学校(現：青森県立青森商業高等学校)卒業。
- 1944 昭和19 入隊。中国各地を転戦。
- 1946 昭和21 春、復員。
- 1951 昭和26 家業の写真材料商を手伝い始める。
- 1953 昭和28 松井弘子と結婚。
- 1954 昭和29 《パイプ》で東奥美術展特選。父・平八郎が創始した写団「北陽会」会長に就任(1961年まで)。
- 1961 昭和36 上京し、フリーのカメラマンに。《下北の荒海》で「カメラ芸術」新人賞受賞。
- 1963 昭和38 新潮社から「津軽 一詩・文・写真集一」(文・石坂洋次郎、詩・高木恭造)が刊行される。年末から翌年にかけての冬季に行なった北海道での撮影旅行中に体調を崩す。
- 1964 昭和39 青森市内で死去(享年39)。

#### ■展覧会歴[\*は個展]

- 1958 昭和33 \*「津軽」(小西六ギャラリー・東京)
- 1962 昭和37 \*「凍ばれる」(富士フォトサロン・東京)
- 1990 平成2 「戦後写真：再生と展開」(山口県立美術館)
- ~91 平成3 「戦後写真と東北」(宮城県美術館)
- 1994 平成6 \*「津軽」(JCII フォトサロン・東京)
- 1998 平成10 \*「小島一郎写真展 ー津軽の風土を撮るー」(青森市民美術展示館)
- 2004 平成16 \*「小島一郎」(プレイスM・東京)
- \*「小島のトランプ」(photographers' gallery・東京)
- 2007 平成19 \*「小島一郎」(ラットホールギャラリー・東京)
- 2009 平成21 \*「小島一郎 北を撮る」(青森県立美術館)
- 2014 平成26 \*「小島一郎 北へ、北から」(IZU PHOTO MUSEUM、三島)

#### ■写真集

- 1963 昭和38 「津軽 一詩・文・写真集一」(文・石坂洋次郎、詩・高木恭造)新潮社
- 2004 平成16 「hysteric Eleven 小島一郎」ヒステリックグラマー
- 2007 平成19 「INOUE SEIRYU/KOJIMA ICHIRO」RAT HOLE
- 2009 平成21 「小島一郎写真集成」(青森県立美術館監修)インスクリプト

#### 《会場案内図》

### 青森市民美術展示館

青森市新町2-7-1(善知鳥神社向い)

TEL 017-773-1770

